

## 三菱パイプ用ファン（強制給気ユニット・居室用）

形名 V-08PQF3 (-BE,-CK) (高性能除じんフィルター搭載タイプ)

V-08PQF3 -H (微小粒子用高性能フィルター搭載タイプ)

V-08PQFF3 (-BE,-CK) (高性能除じんフィルター搭載タイプ)

### 据付説明書

### 販売店・工事店様用

別冊の取扱説明書は「お客様用」です。必ずお渡しください。

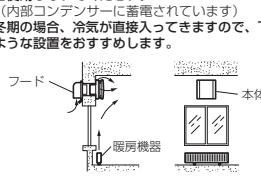
■据付けを始める前に、必ずこの説明書をよくお読みになり、正しく安全に据付けてください。  
■この製品は常時運転の給気専用タイプです。エアフロー換気システム（常時小風量換気システム）の強制給気ユニットとしてご使用になります。

- 電気工事は電気工事士の方が実施してください。
- この製品は住宅の居室用です。業務用などそれ以外の用途では使用しないでください。（故障の原因になります）
- 直接屋外から給気する場合は、雨水浸入防止のためシステム部材（フードなど）を据付けてください。
- 外風の吹き付けの強い場所では耐外風高性能フードを据付けることをおすすめします。（壁面濡れ、雨水浸入、異音等が発生の原因になります）
- 開放式ストップをご使用の場合は、本製品では換気風量不足ですので、専用の換気扇を据付けてください。
- 本体スイッチの操作が困難などごとに据付ける場合は、壁スイッチ（システム部材のコントロールスイッチまたは市販品）の併用をおすすめします。壁スイッチは容易に停止されないよう設置ください。（カバー付など）
- 壁スイッチは入力切替スイッチをご使用ください。（壁スイッチによる風量切替えはできません）
- 壁スイッチを併用する場合は、取扱説明書の使用方法に従い、本体スイッチを設定してください。

V-08PQF3 (-BE,-CK) , V-08PQF3 -H , 本体入切スイッチを「入」にして、強弱スイッチで風量を設定する。  
V-08PQFF3 (-BE,-CK) ……本体入切スイッチを「入」にして、強弱スイッチで風量を設定する。

#### お願い

- 高温（40°C以上）になるとところに据付けないでください。（モーターの寿命が短くなる原因になります）
- 塗装、温泉害の発生している場所には据付けないでください。
- 天井や傾斜面には据付けてください。（雨水や結露水がモーター内部にたまり、ショートの原因になります）
- アルミフレキシブルダクトへの据付けはしないでください。（振動の原因になります）
- システム部材（フードなど）は壁厚にあつたものを選んでください。（壁厚により据付けられないものがあります）
- 壁板は、振動・共鳴音防止のため、強度のあるものしてください。



### 安全のために必ず守ること

誤った取り扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区別して説明しています。

#### 警告

誤った取り扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの

#### 水ぬれ禁止

製品を水につけたり、水をかけたりしない。  
ショートや感電の原因。

#### 分解禁止

改造や必要以上の分解はしない。  
火災・感電・けがの原因。  
分解、修理は修理工技術者のいる販売店または当社のお客さま相談窓口にてご相談ください。

#### 指示に従う

メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とか、電気的に接触しないよう据付ける漏電・発火の原因。  
外気取り入れ口は、燃焼ガスなどの排気口より離れた位置に設ける室内の酸素の原因。  
交流100Vを使用する直流や交流100V以外を使用すると感電の原因。

#### 注意

誤った取り扱いをしたときに軽傷または家財などの物的損害に結びつくもの

#### 禁止

直接炎があるおそれのある場所や油煙・有機溶剤・可燃性ガスのある場所には据付けない。  
火災の原因。

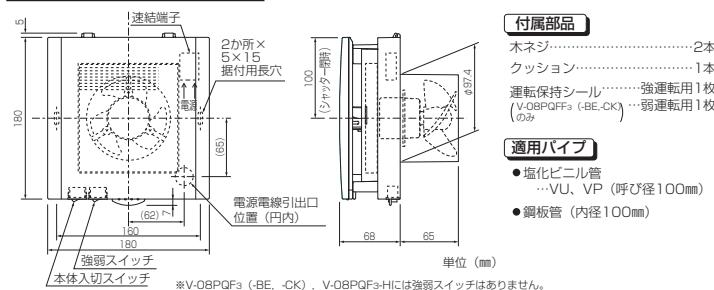
#### 電源・シャッターでの使用禁止

浴室など湿気の多いところには据付けない。  
感電および故障の原因。

#### 指示に従う

電気工事は必ず電気工事店に依頼する。  
感電や火災の原因。  
据付け際は必ず手袋を着用する。  
着用しないとけがの原因。  
部品の据付けは確実に行う。  
落しによるけがの原因。  
本体の据付けは十分強度のあるところを選んで確実に行う。  
落しによるけがの原因。  
電気工事は電気設備に関する技術基準を定める省令（および同解説）および内線規程に従って安全・確実に行う。  
接続不良や誤った電気工事は感電や火災の原因。  
据付け後、長期間使用しない場合は、分電盤のブレーカーを切る。  
絶縁劣化による感電や漏電火災の原因。

### 外形寸法図



### 据付方法

#### 注意

温気の多い場所（浴室及びシャワー付洗面台・衣類乾燥機などの温気が直接当たる場所）、結露する場所には据付けない（感電・故障の原因）

#### 1. 据付け前の準備

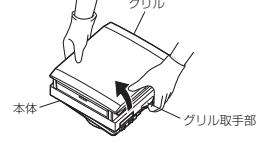
グリルの取手部をまかながらグリルを本体からはずす。

<接続パイプ別準備>

接続パイプは塗化ビニル管の薄肉(VU)管（内径107mm）、厚肉(VP)管、鋼板管（内径100mm）またはこれに相当する内径のパイプを用意してください。

**お願い**

アルミフレキシブルダクトは堅固な据付けができないため使用しないでください。



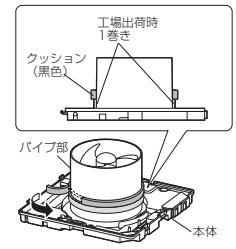
### 据付方法のつづき

#### VP管・鋼板管の場合（内径100mmのもの）

そのまま接続パイプに挿入する。

#### VU管の場合（内径107mmのもの）

本体パイプ部に付属のクッションを貼付け、接続パイプに挿入する。



#### お願い

- クッションは右側の位置に貼付してください。
- クッションの貼り付けを確実に行なないと、パイプと本体のすき間からの雨水の浸入や、ほこりの侵入で壁を汚すことがあります。端部にすぎ難ができないよう貼付してください。

#### 据付穴の準備

##### 1. 据付け場所を決めて穴をあける。

必ず壁厚に応じてパイプの長さを決めてください。

参考:P-13VS4 (深形フード) 使用の場合

必要壁厚  $\geq$  本体埋込寸法 + 深形フードのパイプ接続部 + 余裕しき (105mm以上) (65mm) (42mm) (2mm)

必ず床面より1800mm以上のメンテナンス可能な位置に据付けしてください。

壁・天井との距離が近いと壁・天井面が汚れる場合があります。

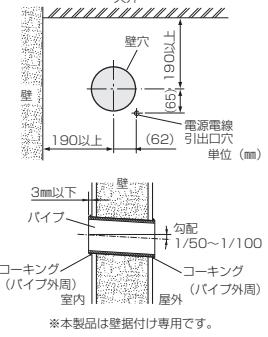
##### 2. 壁穴にパイプを確実に固定する。

パイプと壁のすき間はコーキング処理を施す。

- 電源電線を室内に引き込んでから（[\[2.電気工事\]](#) 参照）行ってください。
- 固定が不十分だと振動したり異常音が発生する原因になります。

#### お願い

- パイプは雨水の浸入を防ぐため屋外側に下りこう配をつけ、固定してください。
- 壁内の雨水浸入を防止するためパイプは室内壁面まで差し込んでください。



### 2. 電気工事

#### 警告

##### ●交流100Vを使用する

直流や交流100V以外を使用する

と感電の原因。

#### 注意

- 電気工事は電気設備に関する技術基準を定める省令（および同解説）および内線規程に従って安全・確実に行う。
- 接続不良や誤った電気工事は、感電・火災の原因。

●電気工事は電気工事店に依頼する 感電や火災の原因。

■市販の壁スイッチを使用される場合は、適切なスイッチを選定して結線してください。

（パイロットランプ付の場合は低ワット（0.5A）用としてください）

#### お願い

- 既設換気扇と交換する場合など、電源電線引出口位置が本体左側にある場合は、電源電線で本体が壁から浮かなくなる、本体裏側の空間を確保するか、電源電線引出口を広げてください。穴を広げた場合は、風漏れ防止のため、必ず不要な部分を補修してください。

##### 1. 電源電線を右図の位置から室内に引き込む。

- 電源電線はVV-F 0.6またはφ2.0 2芯をご使用ください。

##### 2. 電源電線の先端を右図に合わせて皮むきする。

- 端子部への水の浸入・ほこりの侵入を防ぐため、皮むき寸法を必ず守ってください。

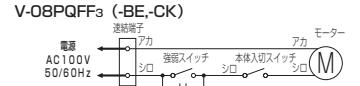
##### ■結線図……太線部分を結線してください。

V-08PQF3 (-BE,-CK) , V-08PQF3 -H



※電源極性はありません。

V-08PQFF3 (-BE,-CK)



### 3. 本体の据付け

#### 1. 電源電線を連絡端子に差し込む。

- ①連絡端子カバーの引掛部に手を掛け、右図のように開ける。

- ②電源電線を連絡端子に差し込み、軽く引っ張って抜けないことを確認する。

- ③確実に連絡端子カバーを元通り閉じる。

#### お願い

- 電源電線の皮むき部分は確実に連絡端子に差し込み、端子より出ないようにしてください。（ショートなどの原因になります）
- 電源電線は本体面に密着させて配線してください。（本体が壁面より浮く原因になります）
- 電源電線を連絡端子よりはずす場合は、ボタン部を押しながらゆっくり電源電線を引き抜いてください。



#### 2. 本体の上下を確認してパイプに差し込み、本体が左右に傾かないよう水平に付属の木ねじ（2本）で固定する。

#### お願い

- 左右の据付け用穴をご使用ください。必要に応じてコーナー一部ネジ穴（薄肉部）をご使用ください。
- 本体が壁面より浮かないように据付けてください。
- 石膏ボードに直接据付ける場合は、市販の石膏ボード用アンカーを必ず使用してください。



#### 3. グリルを本体に据付ける。

- 本体のグリル引掛部（2か所）にグリルの角穴部をはめ込み、下側を押さえで固定する。

- 以上の据付けが終了した後、本体とグリルが確実に据付けられているか確認する。

#### 5. 試運転

据付けが終わりましたら下記の要領にて試運転を行い、正常に動作するか、異常な音・振動などがないかを確認してください。

1. パネルを上方向に手でスライドさせ、シャッター（グリル内部）が閉じることを確認する。

2. パネルを下方向にスライドしてシャッターを開き、本体入切スイッチで換気扇が運転・停止するかを確認する。

#### V-08PQFF3(-BE,-CK)の場合

●本体入切スイッチを「入」にした後、強弱スイッチで強弱運転が確実に切替わることを確認する。

●お客様が強あるは弱運転を保持していただくために同軸の運転保持シールをスイッチ近傍の見える位置に貼付ける。

（V-08PQFF3(-BE,-CK)の場合）

#### お願い

- 試運転が終了したら本体入切スイッチを「切」にしてください。  
また、パネルを上方にスライドさせ、シャッター（グリル内部）を開じてください。（お客様がご使用になるまで製品内にほこりがはいらないようにするために）



**三菱電機株式会社**

中津川製作所 TEL 808 - 8666 岐阜県中津川市鶴鳴町1番3号